

# たまのよこやま

(財)東京都埋蔵文化財センター報 No.10 昭和62年3月31日



土器作り教室の風景

### 「土器作り教室」雑感

最近ではカルチャープームといわれるように、各地でいろいろな文化事業の開催が盛んである。高齢化社会に向けて生涯教育の充実が叫ばれているおり、このブームもそのあらわれの一つであろうか。

当センターでも文化財普及事業の一環として、これまでに遺跡見学会、講演会などの催し物をおこなってきたが、今回は新たに「土器作り教室」がその一つに加わることになった。土器作りは手軽に参加できるためか、老若男女を問わず人気があり、特に考古資料を取り扱う歴史系の博物館では、今や目玉商品的な催し物になりつつある。

ただ、この人気にも気になることがある。それは、土器作り教室が単なる陶芸教室になりかねないのではないかと、いうことにはたいしての危惧である。博物館や当センターのような機関がおこなう土器作り教室は、現代的な陶芸感覚で土器を作り、その出来栄を競う場を提供することにあるのではなく、あくまでも当時の土器がどのような形で作られたかを自らタイムスリップして体験する場を提供することにあると考えられるからである。くれぐれも脱線することがないよう戒めたいものである。

(可児)

### 第四回公開講演会

東京都埋蔵文化財センターでは、昨年十一月十六日、立正大学教授坂詰秀一先生をお招きして「中世社会の信仰と生活」と題する講演会を開きました。約百二十名の参加者がありました。これには当センターからも調査研究員の江里口省三が加わり、中世板碑の解説をおこないました。



坂詰秀一先生講演会

### 土器作り教室

昨年十一月二十二・二十三日、十二月十三日に当センターで土器作り教室を開きました。初めての試みではありましたが、約三十名の

### 展示ホールの展示替え

展示ホールが三月二十八日より展示替えになりました。ホールの右側半分は、稲城市大丸のNo.53遺跡から出土した国分寺瓦を中心とした特別展示になっており、左側半分が従来どおりの通史展示になっています。また、廊下の展示コーナーの一角には、今回オープンした遺跡庭園のNo.57遺跡から出土した遺物も展示されています。

### 講演と映画の会

五月二日、ガーデンシテイイ・多摩87への参加行事として、当センター職員の手井則孝・佐藤政による「原始・古代における住居のう

### トピックス

「つりかわり」と題する講演と、映画「古代史の発掘」の上映が行われます。なお、映画「古代史の発掘」は、昨年の「丘陵の中」の歴史」に続き、稲城市大丸のNo.53遺跡の調査を記録した記録映画で、今年三月に完成したものです。

三月八日 第十二回東京都遺跡調査・研究発表会が、国分寺市立本多公民館で開催されました。当センターからは、斎藤進調査研究員が多摩ニュータウンNo.692遺跡の調査成果について発表しました。

二月二十六日～三月十日 第三回東京の遺跡展(東京都教育委員会主催)が銀座ソニービルで開催されました。一回目の江戸時代、二回目の旧石器・縄文時代に次いで、今回は弥生・古墳・奈良時代を対象にした展示でした。

三月十三日～二十五日 多摩の二万年展(京王聖

蹟桜ヶ丘シヨウビンクセンター主催・ハルテノン多摩共催)が、せいせきアウラホールで開催されました。当センターにも協力依頼があり、縄文土器を中心に多数の遺物が出品されました。



遺跡庭園の開園式

四月一日 昨年十二月に完成した遺跡庭園「縄文の村」がオープンしました。

### 人の動き

▼3月31日付で鳥居芳夫理事(前多摩市教育長)が退任され、その後任として松

尾英昭氏が新理事に就任される予定です。

▼調査研究部の比田井克仁さんが三月三十一日付で退職され、四月から中野区教育委員会へ。後任として、四月一日付で内野正さんを迎えました。

昭和五十九年五月、センターの情報連絡紙として発行された「たまのよこやま」は、関係各位のご協力を得て第十号を迎えることができました。これからも、より親しまれ、より充実した紙面を目標に続けてまいります。皆様のご意見やご提言をお待ちしています。

前号の予告では、本号は遺跡庭園の特集号を予定しましたが、次号としました。

発行 東京都埋蔵文化財センター  
〒206 東京都多摩市落合1-14-2  
☎ 0423-73-5296  
0423-74-8044  
昭和62年3月31日

